

船舶事故調査報告書

平成29年9月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年4月26日 11時20分ごろ
発生場所	大分県臼杵市臼杵港 臼杵港防波堤灯台から真方位334° 140m付近 (概位 北緯33° 07.7′ 東経131° 48.8)
事故の概要	貨物船わかば二世は、出航中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成29年4月27日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨物船 わかば二世、573トン 137039、日本塩回送株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北東、風速 2.0m/s、視程 約8km 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、空倉状態で、船長が単独で操船に当たり、長崎県長崎市長崎港に向けて臼杵港を出航した。</p> <p>本船は、臼杵港の東防波堤と下り松導流堤の間を北北東進中、船長が本船の方に向かってくる2隻の小型船を避けようとして左転したところ、臼杵川河口付近の浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船は、乗り揚げた後約5時間30分後、タグボートによって引き出され、臼杵港内の岸壁に着けた。</p> <p>船長は、事前に臼杵港の水路調査を行っていなかったが、同港の出入航経験が過去に2回あり、本船よりも大きなフェリーが航行していたので十分な水深が確保されていると思っていた。</p> <p>本船の喫水は、船首約2.04m、船尾約3.84mであった。</p> <p>海上保安庁刊行（平成25年3月）の瀬戸内海水路誌には、臼杵川河口付近は流砂のため水深は浅い旨の記載がある。</p>
分析	<p>本船は、臼杵港を出航中、船長が、水路調査を行ってなかったことから、本船の方に向かってくる2隻の小型船を避ける際、臼杵川河口付近の浅所に向けて左転し、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、本船よりも大きなフェリーが航行していたので十分な水深が確保されていると思い、臼杵川河口付近に向けて左転したものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、臼杵港を出航中、船長が、水路調査を行って

	<p>なかったため、本船の方に向かってくる2隻の小型船を避ける際、臼杵川河口付近の浅所に向けて左転し、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・事前に水路誌等で航行予定海域の水路調査を行うこと。